

「下工弁慶号」諸資料

この資料は同窓生 故市川五郎氏（C20）から提供された調査資料を中心に作成されています。

1. 下工弁慶号の生まれと歩み
2. 昔の写真
3. 30年ぶりに走った「下工弁慶号」
4. 「下工弁慶号」各地で走る
5. 「下工弁慶号」を下松市に寄付
6. 北勢線で動態復元した「下工弁慶号」
7. 大鉄道博覧会で展示
8. その他マスコミ報道等

1. 下工弁慶号の生まれと歩み

「下工弁慶号」の生まれに関する新聞記事

「交通新聞」昭和37年1月12日付記事

米国製三両のうちの一つ、下松の機関車、生まれ故郷判る

C. S モールさんが調査

昨年暮れ国鉄本社外務部を訪れたアメリカのレール、ファンが、部長室にあった本紙所載の機関車の写真を見て「これは下松にある古い機関車だろう」とピタリ言い当て、その機関車に関する記録が全くないということを知り「これは多分アメリカ製だ。帰国したら調べよう」と約したことは既報の通りだが、このほどその米人から外務部宛てに調査の結果がもたらされた。

・この米人は豪州メルボルンのモービル石油会社に勤務するC. S モール氏で、山口県下松市の工業高校にある機関車の記録が不明だということで、帰国後調査を行なったもので「あの機関車はやっぱりアメリカ製」と次のような調査結果が報告されている。

・帰国後、私の調べた結果、交通新聞掲載の山口県下松市工業高校の小型機関車は元、日本海軍燃料廠にあるものと信じます。同型の機関車は一号より三号までの三両は1908年1月にアメリカ、ペンシルバニア州フィデルフィアのボールドウィン機関車工場で製造されたものであって、製作番号は、32600、32601、32952番であります。

・これらは、それぞれ762ミリゲージ用のものです。従って下松市のものが2フィート6インチ（762ミリゲージ用）だとすれば間違いなく当該機関車は前記三両の中の一両であります。

以上とりあえずご連絡申し上げます。

豪州ビクトリア州メルボルンにてC. S モール

「下工弁慶号」の生まれに関する雑誌記事

鉄道雑誌「鉄道ファン」昭和38年1月号 掲載

※ 校庭のB o l d w i n

鉄道雑誌「鉄道ファン」昭和38年1月号掲載 庄田 秀

下松市の町外れを流れる平田川沿いの下松工業高等学校の垣内に小さなB型サドルタンク機がおかれています。俗に「下工弁慶号」と呼ばれ、この地方では馴染みの深い存在です。昭和の初期に、徳山の海軍燃料廠から教材用として譲り受け、当時下工の創立記念日や運動会などには、子供を乗せて走ったとか。しかし、その頃からは何処の山のものとも判らず今日に至りましたが、米国のモービル石油会社のC. S モール氏から在日中に見たこのL O C Oについて「帰国後調査の結果、当時（年代不明？）B o l d w i n で三両製造したもののの中の一両であることが判った」の通知があった事を37年3月27日付の中国新聞山口版は報じています。私もなにか手掛かりになるものはないか詳細に見てみましたが、お定まり通り銘板は一切なく、また、ロッド頼も防蝕のため厚化粧をしており、なんらの手掛かりをも探り出し得ませんでした。

「下工弁慶号」の生まれに関する資料

(資料)

※ 校庭下工弁慶号は国産か？

株式会社 交友社（雑誌「鉄道ファン」発行：本社名古屋市千種区宮西町3丁目）

編集部 諸河 久氏からの提供資料

昭和46年夏休み（8月）のある日、上記交友社の諸河久氏が下工弁慶号を撮影の為に来校されたので、私が面談したところ、意外にも下工弁慶号は国産であるとのことで、詳しい資料の提供を求めたところ次のような資料が証拠写真とともに送られてきた。



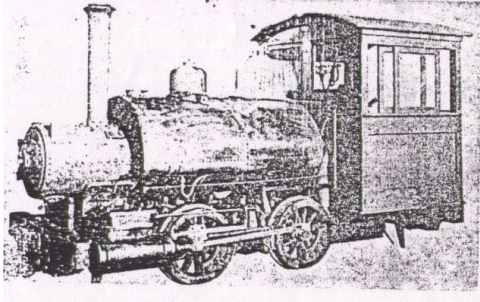
スモール氏が調査されたアメリカ・ボールドウィン製のものは、この機関車です。下松のものと全く似ていますが、これをそっくり真似てわが国で造ったわけです。

※ 校庭のB o l d w i n（1月号サロカー）は国産

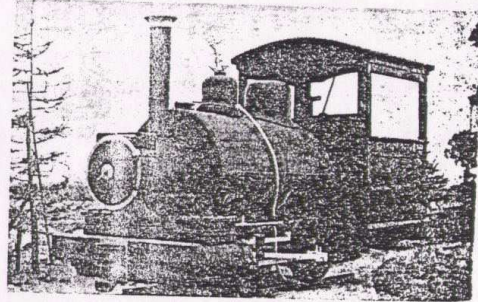
鉄道雑誌「鉄道ファン」昭和38年3月号掲載 白井茂信

東京大学生産技術研究所教授（蒸気機関車の研究家）

庄田 秀氏からお知らせのあった下松工業高校に保存のボールドウィン、サドルタンクについては、昭和36年12月19日付交通新聞に「私は誰でしょう・・・生徒に愛される、下工弁慶号」という題で紹介され、さらに37年1月12日付で「米国製三両中の一両、下松の機関車生まれ故郷判る。C・Sモール氏（モデル石油技師）が調査」という見出しで解答が掲載されたことがあり、興味をもたれた方も多いかと思います。しかし、この機関車はC・Sモール氏の言われるボールドウィンではなく、実は国産と推定されます。私はまだ実際に現物に接しておりませんので推定という言葉を使いましたが、色々な点から間違いなと思います。というのは数年前、小熊米雄さんと石川島重工業株式会社の社史編纂室をお訪ねした際、同社の保存資料の中に、これと同形のものを発見したからで、海軍に納入した記録もありました。この機関車は一見ポーター乃至ボールドウィン風ではありますが、細部の作りが違います。ボールドウィン・（川上幸義氏による）には、確かに徳山海軍燃料廠納入のものにB型タンクが2形式五両がみられますから、C・Sモール氏は単に海軍→下松工業高校という事実と、このリフトから推定され解答を寄せられたものと思われる。石川島の機関車国産化（特に小型機）という問題は、なかなか興味のあることで生産技術的にみれば雨宮の先生格に当たりましょう。ただ同社が船舶方面に力を入れ、鉄道車両はその後殆ど生産しなかったため一般にはあまり知られず「石川島」の存在に気が付かなかったのではないのでしょうか。下松のボールドウィンについての交通新聞の記事に対する修正意見は小熊さんから申し出られましたが、今日までそのままになり、いまだ、ボールドウィンと信じている人が多いと思いますので、あえて、本誌を通じ再検討の要あることをお伝えしておきます。



(石川島造船所製 5. 5吨機関車)



(下松工業高校における機関車)

「下工弁慶号」の歩み

…同窓生 故市川五郎氏（C20）「調査まとめ」…

下工弁慶号の歩み

※昭和46年9月11日付、鉄道ファン編集部諸河 久氏から私宛ての文書で「下工弁慶号」は石川島重工業株式会社製の国産車両であることが石川島重工業株式会社で確認された旨の連絡があった。

※「下工弁慶号」は、明治40年に石川島造船所（現在の石川島播磨重工業株式会社）で6両？製造された国産機関車の1両で、現在可動している唯一の機関車である。

昭和9年まで徳山海軍練炭製造所で石炭の運搬をしていたものを、下工が当時に60円で譲り受け原動機実習等に使用していた。戦前は修理を重ねて一時期は創立記念校内開放行事等で運転されたこともあったが、その後、約30年間も校庭で雨露にさらし展示していたものを、昭和56年（創立60周年記念事業）に職員、生徒により修復して運転された。

※石川島重工業株式会社108年史、東京石川島造船所50年史

明治40年（1907年）大日本軌道株式会社からの注文によって、同形の機関車約20両製作したというのと、同じ年に軽便鉄道（7t蒸気機関車）20両及び5.5t蒸気機関車を製作し、大日本軌道株式会社へ納入したとの、二重の記述がある。

白井教授（東大生産技術研究所）は「ボードウィン」を見本にしたB型サルタンクで海軍用は3.5t（5.5tは誤り）で同じく「ボードウィン」のトラム・ロコを参考に製作し、大日本軌道株式会社の納入したものと解釈されている。内訳は、海軍6両、小田原支社3両、熊本支社4両、福島支社7両と考えられているが、福島支社は、未確認機があり正確は期し難い。

海軍用の5.5t機？は、横須賀造船所「BLW4-8C」が手本と思われるが、シリンダーは6×10"、動輪直径3'8"、軸距離3'4"であった。

大日本軌道株式会社向は全部（へっけい形）で、製造はどこよりも古く「石川島」が原作といえる。最も基本は、熱海鉄道の「BLW4-2C」で、被いを廃し、水タンク様式をサイドに改め、シリンダーは4-3/4×10"と一回り大きいものと推定される。

※下松工業への払い下げの年

昭和9年まで？ 徳山海軍燃料廠で使用

昭和11年頃？ 払い下げ後に整備した卒業生の話

※「下工弁慶号」の運搬方法

徳山海軍燃料廠から大海町沖の浅瀬まで舳を用いて、陸上は丸太を並べ、上に厚い足場板を置き転がした。

※蘇った「下工弁慶号」

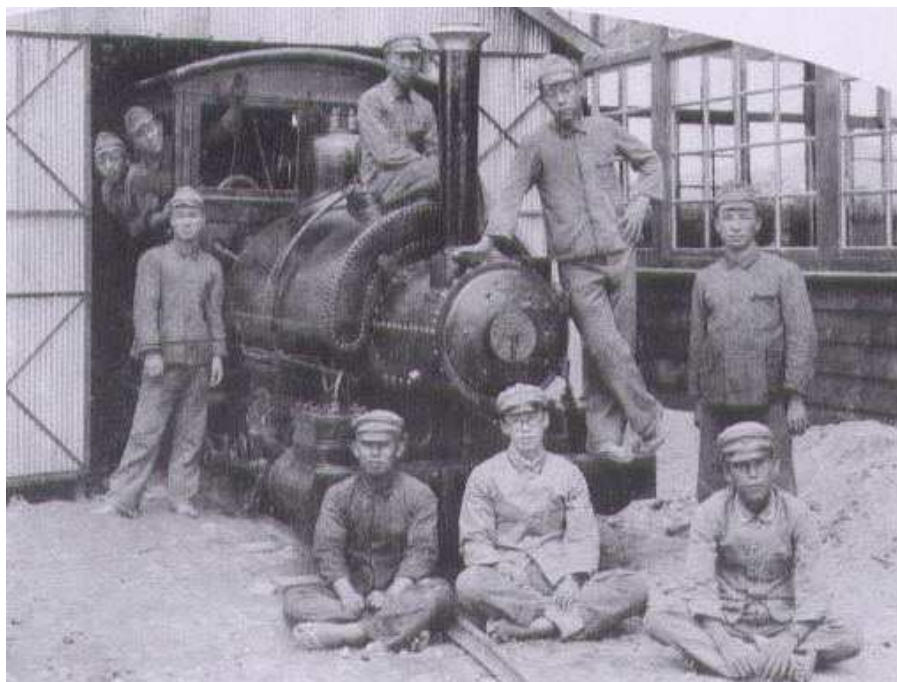
昭和54年8月1日 山口線にSLが正式にダイヤに組み込まれたことで話題となった。

- ◎修復作業の開始 昭和54年1月 校内で母校の職員、生徒が作業を担当
平成14年3月18日 JR小郡機関区でのSLフォーラム
において、山口短大電子情報科利根川貞夫教授（元下松
工業高校電気科教諭）が、昭和54年1月から機械科の先
生達と「下工弁慶号」大改修（完全分解・組み立て）の様
を自作のビデオ（走った下工弁慶号）を上映（分解部品
の紹介等）され、当時の同僚達との苦労話があった。
- ◎修復の完成 昭和56年10月（創立60周年記念事業）
- ◎昭和56年10月15日 創立60周年記念式（記念行事として、校内を一般公開
運転）
- ◎運転後の管理 記念行事後、前庭の車庫の納入
昭和58年7月 防錆油充填用として、日本石油精製(株)から
防錆油ドラム缶3本の寄贈を受け、ボイラー
に充填したが、後の整備で大変支障となっ
た。
- ◎下津井電鉄(株)へ出向 昭和62年9月3日～平成3年9月（瀬戸大橋完成記
念事業）トラックで、下津井電鉄(株)へ出向。下津井電鉄(株)
構内で解体、完全修復作業の開始。
昭和62年12月27日 始運転開始
3ヶ月の日数、350万円の経費
12月30日 公認許可証を受ける。（年1回汽缶の整備
検査：約35万円）
昭和63年3月12日 下津井電鉄(株)児島駅、駅舎竣工披露
…当初の予定では、下津井駅－児島駅間を往復運転す
ることになっていたが、この間は線路に曲がりが多く、
運転が困難なために変更。
下津井駅構内に円形レールを敷き、フラワーパークにして
イベントを行う。
- ◎平成3年4月1日 「下工弁慶号」の所有権が下松工業高校から下松工業
会（同窓会）へ移管される。
- ◎平成3年9月 「下工弁慶号」下松工業高校（同窓会所有の車庫）へ帰る。
- ◎平成3年10月15日 創立70周年記念行事として校内を公開運転する。
- ◎運転後の管理 記念行事後、前庭の車庫に格納
- ◎平成4年12月1日～平成8年3月31日
柳井市、協同組合柳井総合卸センターへ貸し出し
- ◎平成5年10月28日～11月2日
末武公民館祭りへ貸し出し（イベント：10月30日～10月31日）
- ◎平成6年3月31日～4月6日（4月1日～4月4日）
下松市市制55周年記念 切戸川桜桜フェスタ '94へ貸し出し
（イベント：4月2日～4月3日）
- ◎平成6年9月4日（日）（9月2日～9月5日）
中国電力下松火力発電所 創業30周年記念イベントで公開運転

- ◎平成7年12月22日 「下工弁慶号」を下松市へ寄贈する旨申し出る
- ◎平成8年10月26日 (株)日立製作所笠戸工場 創立75周年記念イベント
(構内で運転、一般公開、試乗)
- ◎平成8年10月30日 下松市へ寄贈、米泉湖湖畔の格納庫に収納予定で、格納(車)庫の設計及び、湖畔一周運転の路線計画も完成していたが、移動の経費とそれに伴う「下工弁慶号」の損傷及び将来の可動年数(寿命)等に見通しが立たず、観光客、市民、特に地元米川地区の方々に大変期待されていたのに、やむを得ず計画を中止した。
- ◎平成8年11月1日 「下工弁慶号」展示格納庫落成式(下松市役所グリーンプラザ)以後、この格納庫で展示されている。
- ◎平成16年3月 三重県桑名市 北勢線(「下工弁慶号」と軌道幅が珍しく同じ)の開通90周年記念事業に、修理費先方負担を条件に、平成19年3月まで貸し出す。
同年が、「下工弁慶号」製造100周年記念となる。
- ◎平成19年7月10日～9月9日の間、江戸東京博物館(東京都墨田区)で開催された「大鉄道博覧会」に貸出し展示された。
- ◎平成19年9月19日 貸し出し期間満了により、再び下松市役所前庭グリーンプラザの展示格納庫で展示されている。
- ◎平成19年10月13日、下松ライオンズクラブ等が主催「おめでとう100歳! 下工弁慶号お祝いの会」が開催され、市内の保育園や幼稚園児約300人が集まり“長寿”を祝う。この催しは、地元テレビでも放映。

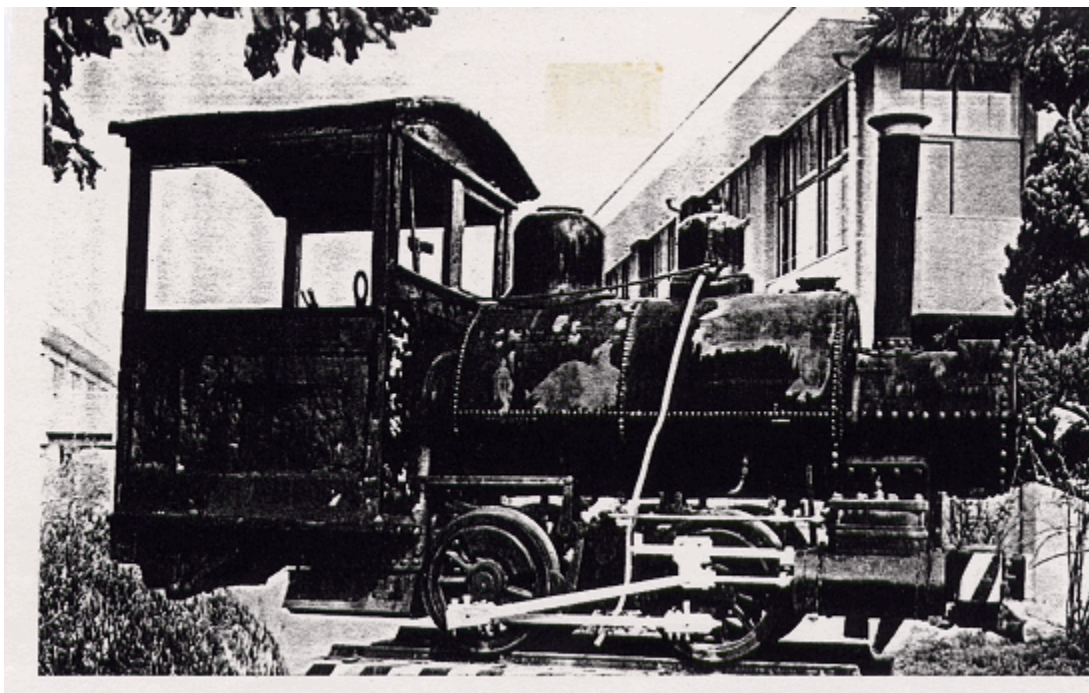
2. 昔の写真

懐かしい一枚（昭和14年の「下工弁慶号」）



校庭に展示されていた当時（昭和46年頃）の「下工弁慶号」の写真





3. 30年ぶりに走った「下工弁慶号」

・昭和56年10月9日、山口県立下松工業高校の
創立60周年記念事業で30年ぶりに走った「下工弁慶号」



・・・30年ぶりに走った「下工弁慶号」を紹介した
当時の新聞記事を抜粋しました・・・

・S L「弁慶号」(昭和56年6月28日「毎日新聞」より)

下松市の下松工業高技(竹中清校長)は、10月に迎える創立(60周年記念式典で、同校に保存されているS Lの“弁慶号”を30年ぶりに走らせようと、解体、整備が着々と進んでいる。このS Lは、明治11年の米国製。動輪は、2軸で、高さ2.5メートル長さ4.5メートルのミニ型。徳山市にあった旧海軍の練炭製造所(のち海軍燃料廠)で昭和9年まで石炭運搬用に使われていたのを“退役”の後、下松工業高校が譲り受けて実習に使っていた。

戦後の昭和26年秋、運動会でマキをたいて走ったのを最後に、スクラップされかかったのを「下工名物の大切なもの」というOBたちの思いを尊重、昭和36年から正門わきに展示されていた。

「60周年の区切りに、もう一度走らせたかった」というOB教職員の声で、この3月から点検作業が始まった。30年間も風雨にさらされ、なくなった部品も多かったが、概械科の先生4人が中心になって解体、約69万円をかけてボイラーの修理や部品づくりもして化粧直しも終わり、22日から組立作業に入った。レール50メートル分はすでに建設業者を通じて確保しており、10月9日の式典では、弁慶号が走るのをOB、生徒も待ち構えている。

昭和56年8月15日「朝日新聞」青鉛筆欄より

S Lばやりの昨今だが、山口県下松市の県立下松工業高校(竹中清校長)では、明治生まれの軽便蒸気機関車の“再生”めざして、機械科の先生4人が、懸命の修復作業中。

鉄道史研究者・臼井茂信さん(62)＝千葉市在＝の調査では、米国・ポールドウィン社製を模した明治7年生まれの国産。ゲージ(軌間)が国鉄の機関車より30センチ狭く、ボイラーの上にある鞍(くら)型のサドルクックが特徴。同型が7両つくられたが現有するのは、この1両という。同校で昭和9年、徳山の旧海軍燃料廠(しょう)から教材用に譲り受けた。

26年、運動会で走ったきり“休眠”していたが、生徒、OBの愛着が強く創立60周年の今年1月に“復活決定”・・・複清流定”すでにほぼ修復を完了。近く20メートル程度のレールで試運転、10月の同校創立記念日に30年ぶりのお披露目をする。臼井さんは「全国の鉄道ファンにぜひ紹介したい」。

・元祖SL「弁慶号」復活 30年ぶりに下松工で

(昭和56年10月2日「毎日新聞」夕刊より)

30年ぶりに懐かしの汽笛一山口県下松市の県立下松工業高校(竹中清校長、869人)に保存されていたSL「下工弁慶号」が復活。創立60周年の9日、グラウンドを走る。整備も済み、ただ今“本番”目指して、試運転中だが、力強く吐き出す蒸気に、復活に取り組んだ先生、生徒はうれしそう。このSLは明治41年の米国製で762ミリゲージ用。動輪は二軸で、高さ2.5メートル、幅1.5メートル、長さ3.5メートルのミニ型。徳山市の旧海軍練炭製造所(後の海軍燃料廠)で石炭運搬用に使われていたが、昭和9年、“退役”。同校が譲り受けて、生徒の実習用に使われていた。しかし、26年秋の同校運動会でマキをたいて走ったのを最後に、スクラップのピンチにさらされながらも「下工名物の一つ。OBには思い出のものだし、残してほしい」との強い意見で、36年から正門わきに風雨にさらされながら展示されていた。

今年初め「60周年を機会に、もう一度走らせてみたい」とOBの間から希望が続出、現役最後の運転の際に同校教諭だった竹中校長や機械科の藤森友友則教諭ら4人も賛同、点検、整備作業に取りかかった。作業は放課後も行われ、生徒等も自主的に加わった。

30年間も風雨にさらされていたため車体はさびついてガタガタ、シリンダーやボイラーの破損もあり、約60万円かけて部品づくりから始め、さらにSLがけん引する16人乗りの客車も整備、9月中旬から組立作業をして見事に完成、1日から試運転に入った。レールは建設業者のトロック用約90メートルを借用、試運転では石炭をたき、客を乗せて黒い煙、白い蒸気をはきながら順調に走って大成功だった。9日の記念式典当日は、生徒、OBの見守るなか、午前11時半からグラウンドを走る。

・「弁慶号」よみがえる下松工高60周年記念に展示物を大修理

(昭和56年10月9日「山口新聞」より)

学校の展示物になっていた蒸気機関車が、先生と生徒とによって修復され、30年ぶりに白い煙をはく。この機関車は、県立下松工高の「下工弁慶号」。弁慶号は明治40年に誕生、徳山の旧海軍燃料廠で石炭運搬用に使われたのち、同校が昭和9年に譲り受け、動かなくなった26年まで、機械実習用とし活躍していた。その後は、校門のそばに展示されていた。

同校の創立60周年を記念して再び動かすことになったもので、修復作業は今年1月から機械の先生4人が中心になって始め、このほどようやく完成、全長5メートルしかない小型SLだが、サビを落とし、ペンキを塗り替え、昔どおりの堂々たる姿に。

今日9日の60周年記念式典のあと、グラウンドに約90メートルのレールを敷き走らせることになっており、竹中校長は「卒業生に喜んでもらおうと思って修復させた。いい記念になるでしょう」と話している。

〈昭和56年10月10日「中国新聞」より〉

下松市大海町、県立下松工業高校(竹中清校長 860人)のシンボルとして校門わきに保存されていたSL弁慶号が職員や生徒らの手で修復され、創立60周年記念式典が聞かれた9日、同校グラウンドで30年ぶりに走った。

この朝6時ごろからボイラーを炊いて晴れの出番を待ったSLは、記念式典が終わった11時から、グラウンドに敷かれた長さ100メートルのレールの上を、汽笛を鳴らし、白い蒸気を吐きながら威勢よく走った。約350人の来賓も代わる代わる試乗を楽しみ、学校は終日、SL人気にわいた。このSLは米国のポールドウィン機関車をモデルに、明治40年、旧東京石川島造船所で造られた。長さ4.5メートル、幅1.53メートルのサドルタンク式SL。「旧徳山海軍練炭所」で石炭運搬用に使われていたのを昭和9年に同校が教材用として当時の金で60円で買った。26年秋の運動会で走ったのを最後に、校門わきで雨ざらしになっていた。こし1月から、60周年記念事業としてSLを走らせようと、機械科の中野雅行教諭(40)ら先生3人と生徒たちが9カ月の月日と材料費80万円をかけて修復、記念式に花を添えた。

・SL30年ぶり黒煙（昭和56年10月10日「朝日新聞」より）

軽便蒸気機関車の“再生”をすすめていた山口県下松市の県立下松工業高校（竹中清校長）グラウンドに9日、85メートルのレールが敷かれ、30年ぶりに復活したSLが急造の客車1両を引いて走った。在校生やOBら約300人が小さな旅を楽しんだ。

横間肅は、米国・ボールドウィン社製を模した東京小石川造船所（現石川島播磨重工）製、昭和9年、徳山市の旧海軍燃料廠から同校が教材用に譲り受けた。26年から運転中止していたが、創立60周年を記念して先生や生徒たちが8カ月がかりで修復した。

鉄道史研究家の臼井茂信さん（62）＝千葉市在住＝の調査では、ゲージ（軌間）が76センチしかないところから「軽便」と呼ばれる。

・30年ぶりに下工弁慶号走る

（昭和56年10月10日「毎日新聞」より）

実習用SLを整備 下松工高創立60周年きっかけにグラウンドに

懐かしの汽笛が30年ぶりに。拍手のなか下工弁慶号が走った！

・・・下松市の県立下松工高（竹中清校長、869人）は9日、創立60周年の記念式典をあげ、戦後まもないころまで実習用に使われていたSLが、解体、整備されて見事に復活、同窓生や教職員職、生徒らを喜ばせた。

同校は大正10年開校で、県内では宇部工とともに古い歴史を持つ工業高校の名門。12,500人の卒業生は、各界で活躍している。

午前10時から体育館で開かれた記念式典には平井知事、井上県教育長、藤田下松市長ら来賓、同窓会下松工業会の藤井軍治会長、元同校教職員、PTA 会員ら約300人が全校生徒とともに出席、竹中校長のあいさつ、知事ら来賓の祝辞、在校生代表、重村宏幸君＝電気科3年＝のあいさつのもと、SL・下工弁慶号の整備、点検作業から試走、成功に至るまでを追った8ミリ映画が上映された。

午前11時半から、グラウンドで、弁慶号の試乗会。明治40年、石川島播磨造船所で造られた動輪二軸で、高さ2.5メートル、幅1.5メートル、長さ3.5メートルのミニSL。徳山市の海軍練炭製造所で使われたあと、昭和9年から同校に移り生徒の実習用に使われてきた。26年秋、マキをたいて走ったのを最後に、正門わきに展示されたままになっていた。

それを「OBの要望もあり、60周年を機会にもう一度走らせよう」と、今年3月から、機械科の中野雅行教諭（38）ら4人が中心となり、整備を進めてきた。風雨にさらされサびついた車体を点検、穴の空いていた煙管や安全弁、それぞれにバルブ、ボルトなどは新たにつくり、12人乗り客車も新造して“本番”に備えた。

ピカピカに新しくなったSLは、グラウンドに敷かれた85メートルのレールの上を黒い煙、白い蒸気を吐き、汽笛を鳴らしてOBや生徒達を乗せて何回も走った。

「まさか、またあの弁慶号が走るなんて・・・。懐かしいです。」OBの1人、市川五郎さん（54）＝下松市花岡＝は感慨探そう。鉄道唱歌が流れるなか、走るSLに隣接の公集小学校1年児童たちも、授業時間に先生と一緒に歓声をあげて見守っていた。

出席者たちは「これはいい記念になる」とカメラを向けていたが関東方面からの熱心なSLマニアも見られた。前橋市元総社町から、駆けつけた会社員、後閑初夫さん（36）は、8ミリカメラを手に「来てよかった。古い、小さなSLが走る姿をフィルムに収めることができ」と満足そうだった。

10日は、全国から卒業生が集まって記念同窓会が開かれ、正午過ぎからこの弁慶号がまた走る。

SL弁慶号は、このあと正門わきに、風雨をさけるよう工夫して保存されることになっている。

・知事もニコリ

9日、県立下松工高の運動場で公開運転された軽便蒸気機関車「下工弁慶号」の乗客第1号は平井龍知事だった。機関車につながれた客員12人の“特別客車”の座席は木製。決して座り心地のよいものではなかったが、用意されたススよけの作業衣を着込んで乗り込み「温故知新。いいですね。生きた教育の原点です」と、しごくご満悦だった。この日、平井知事は同校の創立60周年記念式典にのみ出席の予定だった。が「先生と生後たちが協力して復活させた蒸気機関車」という話を聞き、「協力のたまものを見せてほしい」ということになった。同行の伊東章二秘書も「少々スケジュールの狂いは目をつぶらねば・・・いい話ですから」。

4. 「下工弁慶号」各地で走る

★下津井電鉄で走る

昭和62年12月27日：試運転



下津井電鉄（倉敷市）における 検査・修理・認可等の所見概要

【外観所見】

1. 前頭部.....スカート部分の腐食が著しく、運転には耐えかねるので保管して代替品を装着する予定。
2. 煙室外観.....新設されている校章等はそのまゝ表示する。
3. 排障器.....NO.1 及びNO.2. 共に過去に脱輪等の事故歴が同かがわれ150mm-200mm の破損が大で、修理が必要である。
4. 水タンク..... 保存状態が大変良好であり塗装で十分である。
5. ボイラ外観... ケーシングをとりのぞき目視によればケーシングをしていたボイラの表面の腐食が激しくレントゲン等による検査が急務であり、耐寒地以外ではケーシングをしない方が腐食の進行が少ないと考えられるので検討する。
6. 上部..... 砂タンク、主蒸気溜カバー等は塗装で十分であるが、主蒸気溜蓋止めボルトが一本カシメてあり認可を得られないので早急にタップ切、ボルトが必要である。
7. 運転室..... 運転室は全面改修された跡があり、この車両にマッチして大変ユニークに出来ているので塗装のみでよい。
8. バルブ等..... 固着及び異種取付が随所に見られるので全分解の必要がある。
9. 洗い栓等..... 固着及び異種取付が随所に見られるので全分解の必要がある。

10. 煙管等.....カーボン、煙管取付部の酸化は少なく火床の保存状態は良い。
11. 右走行部.....ピストン棒の腐食が大、スベリ弁のキズ、酸化、欠油、セリが大でNO.1の主連棒、連結棒の酸化が著しくベンガラ等の補修跡がみられるが、検討する。
12. 左走行部.....ピストン棒の腐食が大、スベリ弁のキズ、酸化、欠油、セリが大でNO.2の主連棒、連結棒の酸化が著しくベンガラ等の補修跡がみられる。特にピストンカバー《外部》は破損修理の跡、があり非常に、風通しの悪い所であったと推測され、ドレン、引き棒等の腐食が進んで内部の腐食が憂慮される。
13. 下回り.....火室下回りは大変よい。メタル部分等は目視検査では、欠油が大で全体に弁調整不良の状態と可動させたとみられる、セリ、偏摩耗が随所にみられる。この状態では走行は困難でありNO.2、4のオイル受けは脱輪等によって破壊修理跡があつてピンも変形一部折損の状態と取付てあつた。
14. タイヤ.....600mm 新設時あつたと予測されるが、逆リーバーによる制動が頻繁に行われたと推測され、5mm-10mm、の深さの擦過傷が各タイヤに数多くあり5mm 程度のカエリが全体にみられタイヤ径が586 ±5mm に摩耗している。フォーク、軸、等も傷があり特にボス全体に腐食が多い。
15. 弁装置.....ステファンソン式弁装置は目視 範囲においては、欠油等以外は良好である。
16. 総論.....全般的な見地からの結論は、明治40年頃のSLがこうした状態で大切に保存されていたことに敬意を表します。国鉄OBの方の協力も得て、下津井電鉄職員の熱意をもって必ず動態復元いたします。

問題は認可とボイラ自体の能力が大きなネックであり、これをクリアしなければ下工弁慶号を蘇らせることはできません。

専門的には、ステファンソン式弁調整の参考資料が少ないことです。しかし、今日から数多くの資料と教材を寄せ勉強しながら、豊富な経験をもとに、この問題に取り組みます。

次に必要な機材と修理工具です。これも最終的には手作りによる他はないでしょう。

やるからには完璧をめざしてのぞみます。こうしたすばらしい機会を与えて下さいましたことに深く感謝いたします。

貴重な写真

この写真は、本・四橋「瀬戸大橋」の開通を記念して下津井電鉄を走った「下工弁慶号」を PTA・同窓会で見学した当時の児島駅の写真です。

写真提供：弘実法造氏（M27）

（参考）昭和63年3月12日 下津井電鉄(株)児島駅、駅舎竣工披露



★下松工業高校創立70周年で走った「下工弁慶号」

平成3年10月15日,

下松工業高校創立70周年で同窓生を乗せて走る「下工弁慶号」



★柳井市総合卸センターで走った「下工弁慶号」

・・・柳井市総合卸センターで走る「下工弁慶号」

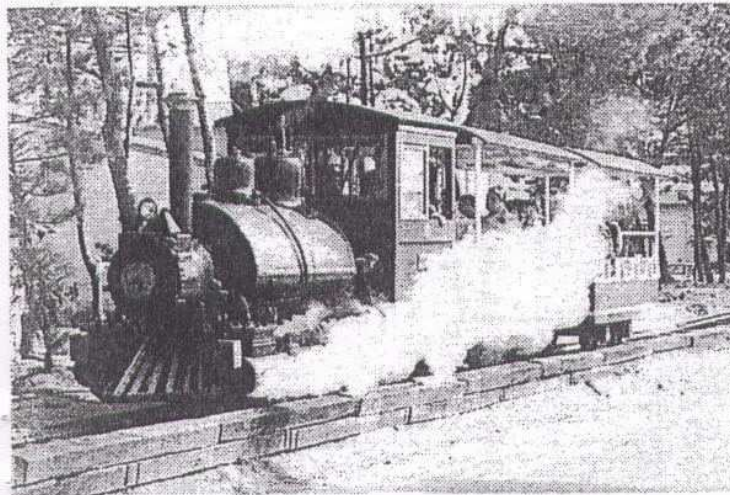
平成4年3月3日～ 柳井総合卸センター20周年記念イベント

懐かしい雄姿 明治時代のSL

下工弁慶号が 発車

柳井卸団地

明治時代に造られた蒸気機関車の「下工弁慶号」が三日、柳井市宮本浜の柳井卸団地を走り、懐かしい雄姿を披露した。団地が今年で二十周年を迎えるのを記念して協同組合柳井総合卸センター（河野新一理事長、二十三社）が、「団地鉄道」として開設。十六日から一般開放する。



松並木沿いを 200 メートル

16日から 一般開放

「下工弁慶号」は、明治四十年に製造され、長さ約四四、高さ二・四メートル。昭和九年に徳山重燃料廠（じょう）から真立下松工業高校へ教材用に払い下げられた。創立六十周年の五十六年に走るように修復され、昨年秋の創立七十周年記念式で校庭を走った。

同校OBで柳井総合卸センターの山本真太郎専務は「白い煙を吐いて走る「下工弁慶号」が総事業費三百万円、団地内の松並木沿いに全長二百メートルを敷き、車庫などを整備した。」

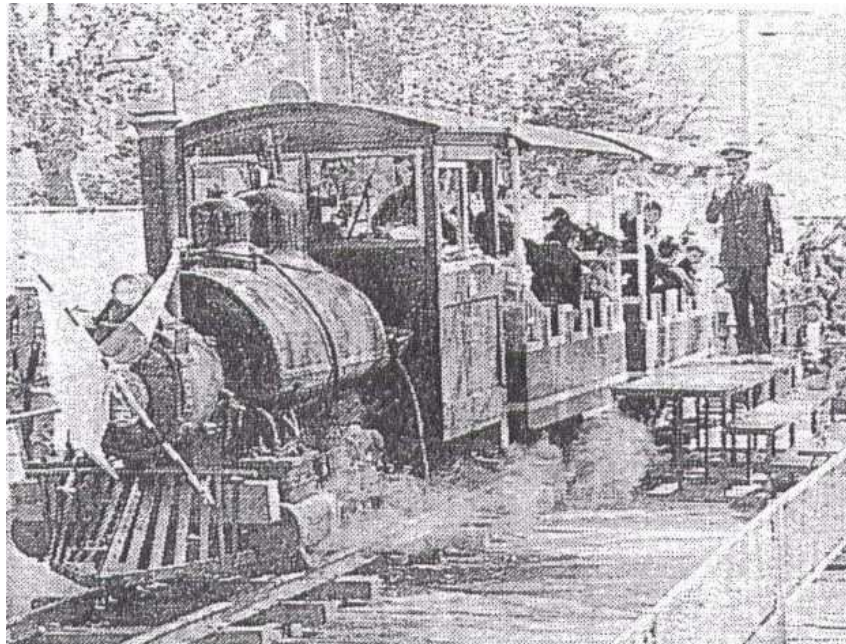
この日は、二十三社の社長らが試乗。旧国鉄柳井機関区OBの太下豊さん（六五）と高東一男さん（六三）が運転士を務めた。汽笛一声、弁慶号は白い煙を吐きながら、十五人乗りの客車二両を引いてゆっくりと走った。

団地鉄道は二十周年記念日の十一月八日まで運行。料金は往復一人百円。SL乗車を乗りながら卸団地が流通に果たす役割を理解してもらおうと、センターは東東部の二市三郡の小中学校、幼稚園、保育所などに利用を呼び掛ける。問い合わせは、センター宮08220(222)70001へ。

★末武公民館まつりで走った「下工弁慶号」

・・・下松市 末武公民館まつりで走った「下工弁慶号」

平成5年10月30日～31日

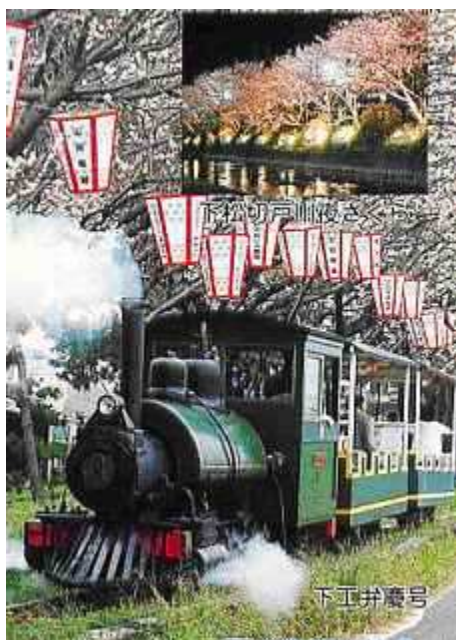


★下松市制55周年特別企画「桜々フェスタ」で走った「下工弁慶号」

・・・下松市制55周年特別企画

“桜々フェスタ”で下工弁慶号桜のトンネルを走る

平成6年4月2日～3日



このとき作られた「テレフォンカード」

出発式スケジュール

(平成6年4月2日：11:00～)

開式のことば

桜々フェスタ実行委員長挨拶

来賓挨拶 (河村市長)

一番切符贈呈 (実行委員長から市長)

来賓乗車

下松駅駅長改札

(市長→来賓

→しょうせいえん・ゆかたえん)

下松駅駅長さくら駅出発合図

乗車

(行き1分 停車2～3分

帰り1分 所要時間5分程度)

さくら駅帰駅をもって式終了

55周年招待客並びに一般客乗り合い開始

5. 「下工弁慶号」を下松市に寄付

★「下工弁慶号」を下松市に寄付

…平成7年12月22日、「下工弁慶号」を下松市に寄付したことを

紹介した当時の新聞記事を抜粋しました…

「夕刊周東」平成7年12月22日

「下工弁慶号」寄付採納 市にて永久保存を 定期的な運転も 米泉湖河畔に展示格納

「下工・弁慶号」として全国に知られる小型蒸気機関車が22日、民俗文化財として市に寄付され、永久保存されることになった。

寄付採納は、22日（金）11時から市庁舎内の市長応接室で行われた。管理する県立下松工業高等学校同窓会・（社団法人）下松工業会から深町和彦会長、下松工高から石部薫校長が出席して河村憐次市長に手渡された。

寄付されたのは「下工・弁慶号」の小型蒸気機関車（サドルタンク式、レールゲージ762ミリ）に付属する客車一両、レール（150メートル）一式、鉄道プラットホーム一台であった。この財産・価値は、日本に2台しか現有しておらず、その一台は博物館入りしており、マニアによると1億円とも2億円ともいわれるすばらしいもの。

この蒸気機関車「下工・弁慶号」は、昭和9年に教材として徳山燃料廠から払い下げを受け長年にわたり学校に保管されていたが、S L ブームに乗って昭和56年に修理され、全国のイベントに貸し出されて「弁慶号」を残すことで地元下松市で保有することを最優先として、下松市と折衝していた。ようやくにしてまとめ文化財として寄付採納を受け、展示格納して永久保存することになった。市としては、米泉湖河畔の整備計画の一環として民俗資料館の建設が計画されており、これにのせて「下下工・弁慶号」の展示格納庫を設けることで県とも協議して新年度予算に計上することで受け入れ体制を整えることに急ピッチにすすめられている。

河村憐次市長は、正式に寄付を受けた「下工・弁慶号」について、市民の貴重な財産として永久保存し、要望どおり展示格納したいと、喜びを語っていた。

また、寄付した深町和彦下松工業会会長は、すばらしい財産が市にて民俗文化財として永久保存されることになり、一安心している、と述べていた。

この「下工・弁慶号」は現在、柳井市内に貸し出されているが、市にての受け入れ整備が整う予定の来年10月までに納入される。

要望される展示格納方法としては、市にて構想される米泉湖河畔周辺の整備として民俗資料館などの建設計画があり、その一つとして「下工・弁慶号」を展示格納して、さらにイベントらで定期的な運転する。

このため、市では新年度当初予算において必要経費を計上して、納入予定の10月までに受け入れ整備をする。これには末武川ダムを管理する県の許可を受けて、米泉湖河畔周辺にマッチした展示格納庫が建設され、その広場を一周するレールを延長450メートルで敷設されることになる。

さらに市観光協会では、地元の花岡・米川地区と共催で、11月の連休を利用して「下工・弁慶号」を目玉とした大々的なイベントが企画される。

「読売新聞」平成7年12月23日

弁慶号を寄付 社団法人 下松工業会 明治時代の蒸気機関車「弁慶号」を寄付下松市に申し出る

下松工高の同窓会「社団法人下松工業会」（深町和彦会長）は、22日所蔵する明治時代の蒸気機関車「弁慶号」の寄付を下松市に申し出た。河村憐次市長は「文化財として、有効利用したい」と快く引き受けた。

弁慶号は1907年に石川島造船所（現・石川島播磨重工業）でアメリカの小型SLをモデルに製造したと言われ、全長4メートル、最大高2.4メートル、重さ5.5トン、1934年に徳山海軍練炭製造所から同校に60

円で払い下げられ、81年に同校生徒らが整備して復元、日本で唯一保有され、しかも走行可能なため、財産価格は「数千万円から1億円」（同会）という。

現在、柳井市の柳井総合卸センターに貸し出され、第二日曜日に約200メートルを走行、子供たちに喜ばれている。ボイラー整備費や燃料代など年間約50万円を同センターが負担しているが、走行用地に道路建設の計画があるため、寄付することにした。来年10月、下松市内の日立製作所笠戸工場の創立75周年で走ったあと、市に引き渡される。

同会は米泉湖畔の設置、走行を希望している。市は「場所選びや格納庫作りなどの準備を整え、万全の態勢で迎えたい」と、話している。

「中国新聞」平成7年12月24日

明治生まれの弁慶号 小型SLを下松市に寄贈 下松工高同窓会が申し出「貴重な文化遺産活用を」

下松工業高校（石部薫校長、560人）の同窓会、下松工業会（深町和彦会長）は22日、会の所有する小型蒸気機関車「弁慶号」と客車一両、レール150メートル、プラットホームなど一式の寄付を下松市に申し出た。河村憐次市長は「市民の要望を聞いたうえで、保存、活用方法を検討したい」という。

弁慶号は全長4.05メートル、幅1.53メートル、高さ2.4メートル。現在、柳井市柳井の総合卸センターに貸し出されている。来年10月、日立製作所笠戸工場の創業75周年事業で走らせる計画もあり、市への移管はその後になる見込み。

弁慶号は1907年（明治40年）、東京の石川島造船所（現・石川島播磨重工業）で製造された国産機関車6両の1つ、徳山海軍練炭製造所で石炭輸送に使われていたのを、1934年に同校の前身、下松工業学校が生徒の教材用として譲り受けた。

戦後は校庭で風雨にさらされていたが、1981年の学校創立60周年記念事業で教職員、生徒の手で修理、再生以降、各種のイベントなどで活躍している。

しかし、ボイラーの修理など維持費が年に40万円も掛かっている。下松工業会は「貴重な文化遺産、市で有効利用してほしい」と寄贈に踏み切った。

「日刊新周南」平成7年12月25日

“下工弁慶号”を市に 下松工業会が寄贈「貴重なSLを文化遺産に」

下松工高の同窓会、下松工業会（深町和彦会長）は長く同校が保存してきた1907年（明治40年）製で今は1台しかない同会所有の小型蒸気機関車「下工弁慶号」を貴重な文化財産にしてもらおうと市に贈ることになり、22日、深町会長が河村市長を訪ね、目録を手渡した。

下工弁慶号は1992年（平成4年）から柳井市の協同組合柳井総合卸センターに貸し出され、今も毎月第二日曜日に元気に運転されてきており、近く返される。今回は車両のほか、定員20人の客車と150メートルのレール、プラットホーム1台も贈られた。

鉄道マニアの間では数千万円から一億円の価値があるといわれる下工弁慶号はアメリカの名機関車で、日本では“弁慶号”の愛称で親しまれたポールドウィン小型機関車をモデルに、石川島造船所（現・石川島播磨重工）で造られた6台のうちの1つ。動くものではこの1台しか残っていない。

長さ4.05メートル、高さ2.4メートル、幅1.53メートル、重さ5.5トンで、車体は緑色。小型だが、明治時代の機関車独特の長い煙突、美しい車体に動輪2輪、ボイラー上部にサドルタンクがあるのが特徴。前部中央には同校の校章と「下松工高」のプレートがある。

1934年（昭和9年）ごろまでは徳山海軍燃料廠で石炭運搬に使われていたが、その後、同校が60円で払い下げを受け、原動機の実習用に使っていた。しかしそのあとは30年間も放置したままだったが、1981年（昭和56年）に職員、生徒が力を合わせて修理し、記念行事でグラウンドを走った。

このあとも1987年（昭和62年）からは岡山県倉敷市の下津井電鉄に貸し出され、下津井駅のフラワーパー

クで運転、同校に帰った1991年（平成3年）に所有が同校から工業会に移り、この年の創立70周年記念式典でも職員と生徒たちが整備、再びグラウンドを走った。その後は柳井で活躍する間に、末武公民館祭りや切戸川桜フェスタ、中国電力創立30周年まつりなど、たびたび“里帰り”して市民に親しまれていた。

この日は深町会長が、「弁慶号は市民の貴重な文化遺産。広く市民に親んでもらい、できれば米泉湖畔に計画されている施設の一つとして有効活用して欲しい」と目録を手渡すと、河村市長は「利用方法は市民と相談してから決めたいが、新しい下松の顔にしたい」と答えていた。

「山口新聞」平成7年12月25日

「世界的な文化財”観光資源に活用を」 明治40年製SL贈る 下松工高OB会、市に

県立下松工高の卒業生で組織する下松工業会（深町和彦会長）はこのほど、戦前まで同校で使われていた明治40年製達の小型蒸気機関車を下松市に寄贈した。この機関車は8年前に修理され、今でも走られる状態。「走らせれば世界的文化財」とあって同工業会は「観光資源としても活用して」と要望。河村憐次市長は「必ず走らせます」と約束した。来年以降には90年近く前の勇姿が再現されそうだ。

この機関車は「下工弁慶号」と呼ばれ、同校のシンボリック存在。明治40年、兵庫県の石川島造船所で製造された6両のうち現存する唯一の車両。全長4.05メートル、高さ2.4メートル、幅1.53メートル、重量5.5トン、ボイラーの上に水タンクを亀の甲のように背負っているため「亀の甲」と呼ばれ、世界的にも価値が高い。

昭和初期まで旧徳山海軍燃料廠で使用、9年に同校が払い下げを受け、教材として活用した。戦後、校庭に展示されていたのを56年の創立60周年記念事業で修復。62年から4年間、瀬戸大橋開通記念として岡山県の下津井電鉄に、平成5年からは柳井市の卸総合センターなどにも貸し出されて各イベントで活躍している。

走らせるには整備、維持費が年間約40万円も必要。同工業会は文化財的価値のある「弁慶号」を市に寄贈して、下松の新たなシンボルに活用してもらうことにした。併せて客車一両、150メートルのレールなども寄贈した。現在、柳井卸センターで月一回、運転している。同工業会は「来年10月ごろ下松に引き取り、米泉湖周辺で活用してほしい」と要望している。

市は庁内にプロジェクトチームを編成、活用方法を検討する。河村市長は「市民が一番喜ぶ方法で走らせたい」と話している。

「朝日新聞」平成7年12月26日

明治時代のSL 寄付 下松工高同窓会・市が永久保存へ

県立下松工業高校の同窓会「下松工業会」（深町和彦会長）は先日、明治時代の蒸気機関車「弁慶号」を下松市に寄付した。市は貴重な近代化遺産として、市内で展示、永久保存する予定でいる。

「弁慶号」は米国ポールドウイン社の設計で、1907年に石川島造船所（現・石川島播磨重工業）で造られた長さ4.0メートル、高さ2.4メートルで重さ5.5トン、徳山市にあった海軍燃料廠で石炭運搬に活躍し、1934年に“引退”、同校の前身下松工業学校にボイラーの実習教材として払い下げられた。

その後、校庭で放置されていたが、1981年に約300万円をかけて修復し、1987年に岡山県の私鉄に貸し出して現役復帰した。1992年からは協同組合柳井総合卸センターが、中国電力柳井火力発電所前で営業運転。機関車は同会の所有になっていた。

今回の寄付は線路などが道路工事で取り払われるため、深町会長（71）らが市役所で河村憐次市長に目録を手渡した。「下松には新幹線の車両を製造している工場もあり、鉄道と縁が深い。有効に活用したい。」と河村市長。「弁慶号」は来年9月まで柳井市で運転された後、下松市に移される予定。

「毎日新聞」平成8年1月9日

「弁慶号」を下松市に寄贈 下松工高同窓会 客車1両、レールなど一式も

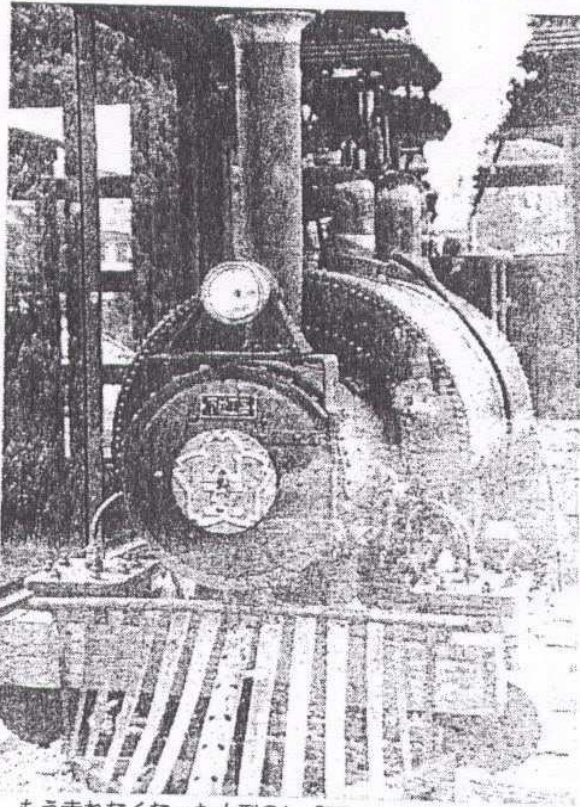
県立下松工高同窓会の下松工業会（深町和彦会長）はこのほど、所有する明治時代の小型蒸気機関車「弁慶

号」など一式の寄贈を下松市に申し出た。市は有効利用する方針。弁慶号は1907年（明治40年）に石川島造船所（現・石川島播磨重工業）が製造。全長4メートル、高さ2.4メートル、幅1.5メートル、重さ5.5トン。

1934年（昭和9年）、石炭輸送に使用していた徳山海軍燃料廠から下松工高の前身、下松工業学校が教材として払い下げを受けた。一時は校庭で雨露にさらされていた。しかし、SLブームのなかの1981年、創立60周年記念として生徒らが修復して運転。1991年に下松工業会に移管され、市内外のイベント等で活躍した。現在は柳井市の柳井総合卸センターに貸し出している。

下松工業会は客車一両、レール（150メートル）、プラットフォームも寄付。年間維持費は約40万円で、時価は合わせて6、7千万円から1億円相当、という。来年度には市に引き渡される予定。下松工業会は「民俗文化財として地域振興に役立てて欲しい。米泉湖畔で運転できるようになれば……」としている。

人気者の小型SL「下工弁慶号」90歳



もう走れなくなった小型SL「下工弁慶号」=下松市役所前広場で

下松市役所前広場

下松市の下松工業高校同窓会から市に寄贈され、市役所前に置いてあった小型蒸気機関車「下工弁慶号」が、心臓部にあたるボイラーの故障で走れなくなった。修理には費用がかさみそうで、安全上の問題も残ることから、市は修理をあきらめた。製造から九十年。文化的遺産としてこれらからも展示は続ける。

市修理断念、展示保存へ

天寿全う、現役引退

★「下工弁慶号」展示格納庫へ

「下工弁慶号」展示格納庫(下松市役所前庭グリーンプラザ)落成式

…平成8年11月1日(金) 10:00～ 下松市役所グリーンプラザ

式次第

- 1 開式のことば
- 2 市長あいさつ
- 3 来賓祝辞
- 4 経過報告
- 5 テープカット
- 6 閉式のことば

下工弁慶号及び展示格納庫



下工弁慶号展示格納庫建設経過報告

◆展示格納庫の概要	建設場所	下松市大手町3丁目3番3号 下松市役所グリーンプラザ内
	建築面積	12.81㎡
	構造	鉄骨造平家建
	工期	平成8年8月26日～同年10月31日
	付帯設備	レール敷設(外部)5m 説明板 1台 ステンレス製ボール鎖式
	施工	株式会社新笠戸ドック 笠戸建設株式会社

◆建設総事業費	7,402千円
展示格納庫設置工事費	6,458千円
展示格納庫基礎工事費	944千円

◆下工弁慶号の概要

明治40年に石川島造船所で製作されたB型サドルタンクの蒸気機関車で、その形状から亀の甲とも呼ばれる世界的にも価値の高いものである。

昭和9年まで徳山海軍練炭製造所が所有していたが、山口県立下松工業学校が当時60円で譲り受け、原動機実習等に使用され、「下工弁慶号」の名称で親しまれていた。

戦後は、同校の校庭にモニュメントとして展示されていたが、昭和56年に生徒と教員で修復し、その後、市内外でのイベントで一般公開運転されてきた。

昭和63年に同校同窓会の社団法人下松工業会に移管され、今なお動する唯一の機関車であり、貴重な文化的資産として長く保存管理するため、平成8年10月下松市に寄贈された。

[仕様]	全長	4,050mm
	重量	5.5t
	車軸幅	762mm
	本体動輪	2輪

下工弁慶号

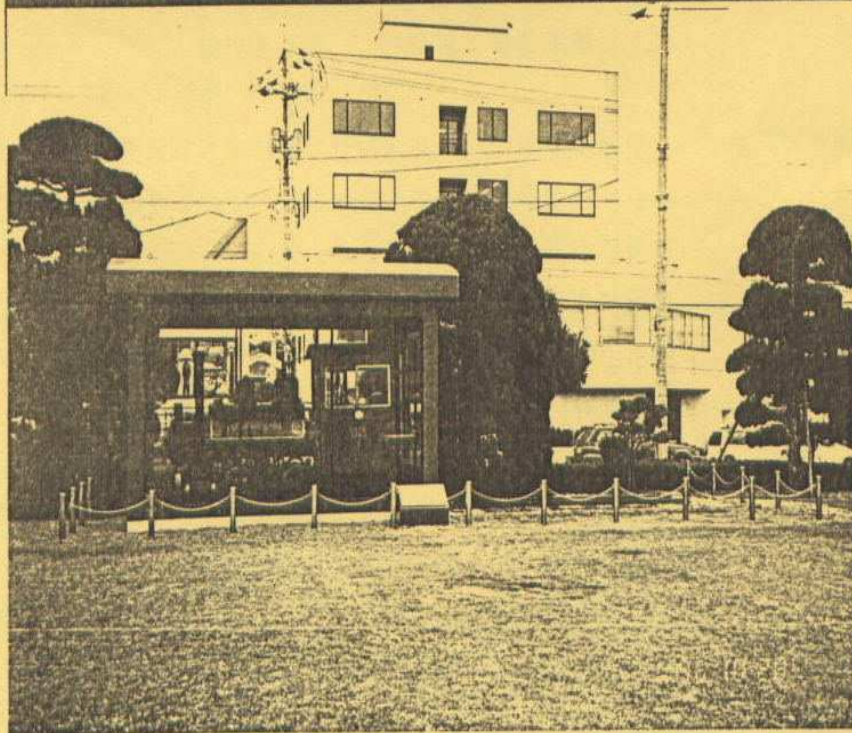
明治40年に石川島造船所で製作されたB型サドルタンクの蒸気機関車で、その形状から亀の甲とも呼ばれる世界的にも価値の高いものです。

昭和9年まで徳山海軍練炭製造所が所有していましたが、山口県立下松工業学校が当時60円で譲り受け、原動機実習等に使用され、「下工弁慶号」の名称で親しまれていました。

戦後は、同校の校庭にモニュメントとして展示されていましたが、昭和56年に生徒と教員で修復し、その後、市内外でのイベントで一般公開運転されてきました。

昭和63年に同校同窓会の社団法人下松工業会に移管され、今なお可動する唯一の機関車であり、貴重な文化的資産として永く保存管理するため、平成8年10月下松市に寄贈されました。

【仕様】 全 長：4,050mm 重 量：5.5t
車 軸 幅：762mm 本体動輪：2輪

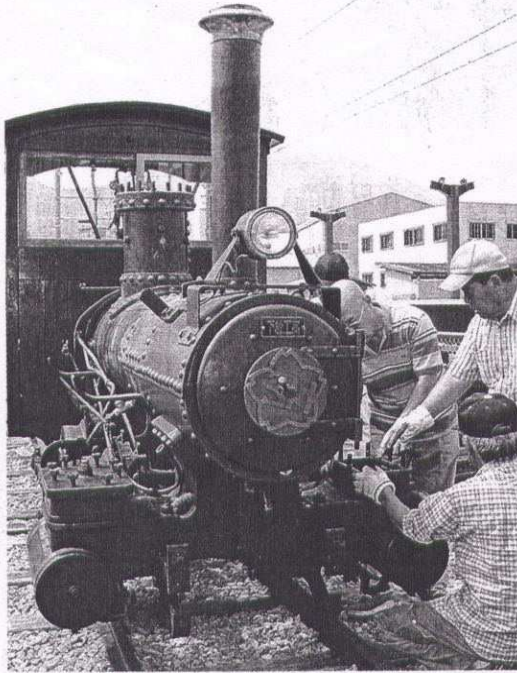




6. 北勢線で動態復元した「下工弁慶号」

★北勢線に貸し出された「下工弁慶号」

走れSL 雄姿再び



週末に行われている下工弁慶号の修復作業。いなべ市北勢町阿下喜で

三岐鉄道(本社・四日市市)の北勢線(桑名市-いなべ市)の活性化を目指す住民グループが、約百年前に製造され、北勢線阿下喜駅前に保管されている蒸気機関車(SL)「下工(くたご)弁慶号」を走らせようと、車両の修理に取り組んでいる。「白い煙を吐いて走る姿を見たい」という鉄道ファンが来年早々には実現しそうだ。(中沢 穂)

住民ら着々と修理

来年早々、実現へ

約二十人が集まった。SL一九〇七(明治四十七年)に製造され、全長約四メートル、軽自動車より少し大きい程度だ。山口県内で石炭運搬用に使用され、同県下松市の下松工業高校が保管してきた。下工弁慶号が阿下喜駅に来たのは昨年四月。ASITAが下松市などに働きかけて、三年間の期限付きでレンタルが実現した。現在は月一回、北勢線阿下喜駅前で公開されている。

修理は月一、二回のペース。「私が子どものころは北勢線でもSLが走っていた。そのころを思い出して懐かしい」と近鉄OBの岩谷孝さん(仮名) 桑名市友村。「百年前のSLだけど、整備が行き届いてしっかりしている」という。

八月にはボイラーの水圧検査で、圧力漏れの部分を確認。現在はボイラーや動力部を分解し、古くなって固まってしまった潤滑油やさびを落とす作業が進む。作業に加わると話している。

ASITAの安藤代表は「寒い空気に白い蒸気が美しく映える冬の間に、なんとか走らせたい。北勢線を利用する人が増えればうれしい」と話している。

★「下工弁慶号」・北勢線での動態復元披露式

「A S I T A（北勢線とまち育みを考える会）」によって、進められていた下工弁慶号の動態復活を目指した修理が完了し、阿下喜駅前の軽便博物館展示線約80m（ターンテーブル有）にて動態復元披露式が挙行されました。

（社）下松工業会からも、野田会長と深町名誉会長が出席し、下工弁慶号の復活をお祝いしました。

日時：平成18年3月5日（日） 11：30…お披露目式 12：00…走行運転開始

場所：三岐鉄道北勢線・阿下喜駅前「軽便博物館展示線」

お披露目した「下工弁慶号」

写真提供 C 3 4 野田泰典氏



会長・名誉会長同窓生と



下工弁慶号の勇姿



下工弁慶号の勇姿

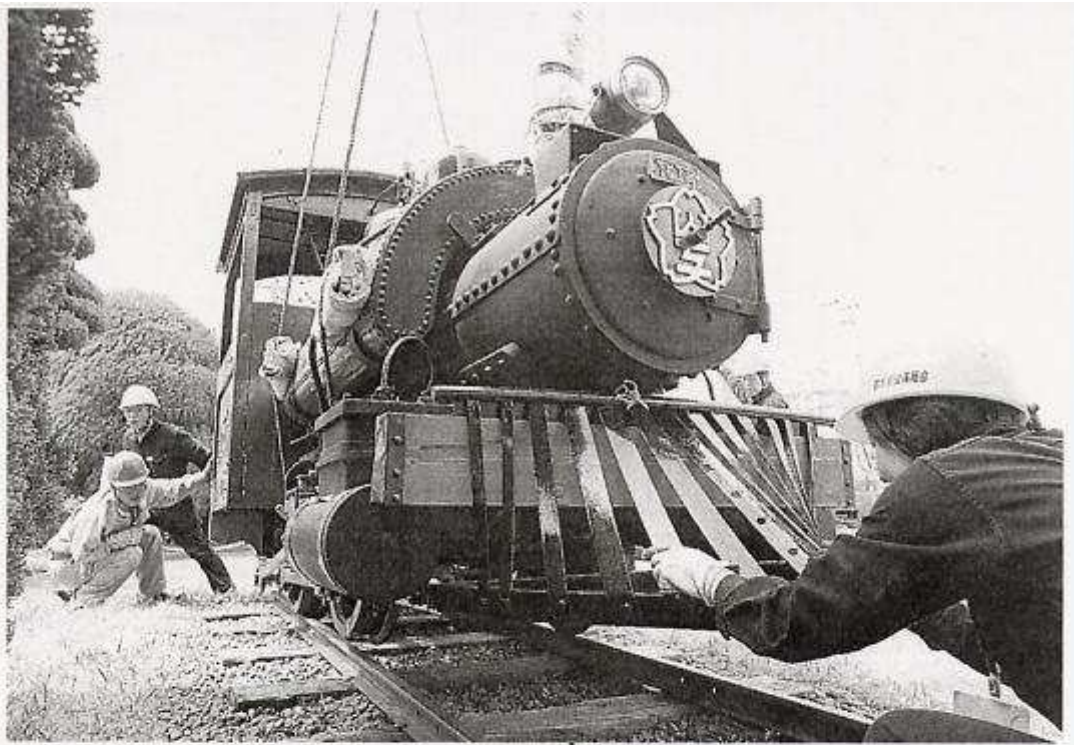


下工弁慶号の勇姿



★ 北勢線から帰ってきた「下工弁慶号」

3年ぶりに故郷へ戻ってきた小型蒸気機関車「下工弁慶号」112日午前、山口県下松市で、藤脇正真撮影



100歳弁慶号 下松に帰郷

3年ぶり、三重から

H19.4.3「朝日新聞」

1907（明治40）年製の小型蒸気機関車（SL）「下工弁慶号」が2日、山口県下松市役所前広場に3年ぶりに帰郷した。三重県の私鉄活性化

の「起爆剤に」と貸し出されていた。100歳のSLはまだ走れるが、市はガラス張りの格納庫で展示する方針だ。全長4・05m、高さ2・4m、重さ5・5t。旧徳山海軍燃料廠で石炭輸送に使われた。現在の下松工業高校が教材用に譲り受け、市には95年に寄贈された。

貸出先は、三岐鉄道北勢線（西桑名―阿下喜間20・4km）の地元、三重県桑名市などがつくる協議会。管理を委託された住民団体がボイラーを修理して専用線で走らせたが、協議会は安全面で問題があるとして対立していた。住民団体の会長は「火を毎月入れて維持してきた。下松でも走ってほしい」と話した。

お帰りなさい 「下工弁慶号」

3年ぶり雄姿

三重県内の鉄道から返還

三重県の三岐鉄道北勢線（桑名市）いなべ市間（20・4キロ）の活性化のため、下松市が無償で貸し出していた小型蒸気機関車「下工弁慶号」が返還され、3年ぶりの帰郷を祝う式典が2日、格納庫のある市役所

松工高の同窓会から市に寄贈され、グリーンプラザで展示されていた。

三岐鉄道北勢線には、沿線の自治体でつくる北勢線対策推進協議会の要請を受けて、2004年4月に3

年間の期限付きで貸し出した。いなべ市の阿下喜駅構内に格納庫と全長約80メートルの専用レールが設置され、月に1〜2回、イベントで走っていた。

Lady's
清潔感あふれる
30代からの
お出かけ着
pe pe

下工弁慶号は1907年（明治40年）に東京石川島造船所（現・石川島播磨重工業）で製造された。旧徳山海軍燃料廠で石炭運搬に使われた後、旧下松工業学校（現・下松工高）で実習教材となった。96年に下

格納庫に入れるため弁慶号を押し井川市長（右）ら



格納庫に入れるため弁慶号を押し井川市長（右）ら

この日の式では、下松市の井川成正市長が「大切に活用してもらい、下工弁慶号にとって実りの多い3年間だった」とあいさつ。出席者が弁慶号を押し、ガラス張りの格納庫に収めた。

7. 大鉄道博覧会で展示

江戸東京博物館（東京都墨田区）で平成19年7月10日から9月9日の間、開催された「大鉄道博覧会」で展示された「下工弁慶号」に関する情報です。

★「大鉄道博覧会」への貸し出しを報じる新聞報道

平成19年5月23日 日刊「新周南」

下工弁慶号が大鉄道博覧会に

7月～・江戸東京博物館に貸し出し

“満100歳”休む間なく全国の舞台へ



桑名市から帰ってきた下工弁慶号（4月2日）

100歳を迎えた下松市のミニSL、下工弁慶号が7月10日から9月9日まで東京墨田区の江戸東京博物館で開かれる大鉄道博覧会に貸し出される。3年間貸し出した三重県桑名市から4月に帰ってきたばかりだが、今度は全国のひき舞台での展示になり、ふるさどで休むひまもない人気。

下工弁慶号は全長4メートル、車輪の幅は762センチの狭軌で、1907年（M40）に石川島播磨重工業が製造した。徳山海軍燃料廠で石炭運搬に活躍し、下松工高で原動機実習機材として使われ、96年（H8）に市に寄贈され、市役所前に格納庫を作って保管してきた。

貸し出した桑名市などの北勢線対策推進協議会では1年半がかりで修理し、三重労働局の走行検査にも合格。月1回の走行にはたくさんの観光客が訪れ、地域活性化に貢献したという。

大鉄道博は同博物館や東京都歴史文化財団などの主催。鉄道黎明期▽旅・移動と鉄道▽高度成長期の鉄道と社会▽昭和を駆け抜けた鉄道車両▽文化と鉄道▽レールは未来への6つのコーナーで、下工弁慶号は目玉として「鉄道黎明期」コーナーに展示される。

同展には特急つばめの展望車の実物大模型▽昭和30年代に活躍した列車数十本の模型▽集団就職や修学旅行などの写真もある。車両も鉄道の転換期になった昭和30年代のものを中心に紹介し、都市や社会、文化に与えた影響をたどる。

下工弁慶号の同博覧会展示は19日に開かれた下松工高同窓会、下松工業会の総会で井川市長が報告し「市と下松工高のシンボルが全国の舞台に並ぶのはこの上ない誇り」と述べた。

下工弁慶号は現在、システム機械科3年生4人が図面化へ採寸作業をしており、これが終わるのを待って6月末にトラックで出発する。同博覧会は一般1,100円、学生840円、小中高校生と65歳以上450円。当日券は200円増し。同博物館は03-3626-9974。



下工弁慶号「全国デビュー」

現存する国内最古の小型蒸気機関車とされる下松市所有の「下工弁慶号」の写真が、7月10日から東京・墨田区の江戸東京博物館で開かれる大鉄道博覧会（読売新聞社など主催）で展示されることになった。井川成正市長は「市の大きな財産で、展示はとても光栄なこと」と「全国デビュー」を喜んでいる。

国内最古のミニSSL 下松市所有

市によると、江戸東京博物館の学芸員ら十数人が4月下旬、下工弁慶号の視察で市役所を訪問。同博覧会での展示のための貸し出しを打診されたという。

下工弁慶号は、100年前の1907年（明治40年）に東京石川島造船所（現・石川島播磨重工業）で製造された。全長4.05で、幅が0.762と狭い特殊な軌道を採用。徳山海軍燃料廠で石炭の運搬に使われた後、下松工業学校（現・下松工高）で実習教材となり、96年に下松工高同窓会から同市に寄贈された。2004年4月から3年間は、三重県の三岐鉄道北

7月10日 大鉄道博覧会で展示

勢線に無償で貸し出され、阿下喜駅構内に設置された専用レールを、イベントで月に1、2回走った。今年4月に帰郷したばかりで、現在は市役所グリーンプラザの格納庫に納められている。大鉄道博覧会は9月9日まで。下工弁慶号は、明治時代から戦後までの鉄道の歩みを紹介するコーナーで、旧新橋停車場跡地から出土した明治時代のレールなどと一緒に表示される。6月下旬に陸路、搬送される予定だ。問い合わせは江戸東京博物館（03・3626・9974）へ。

下工弁慶号が上京

来月10日から 大鉄道博覧会展示へ

東京・墨田区の江戸東京博物館で7月10日に開幕する大鉄道博覧会（読売新聞社など主催）で展示される小型蒸気機関車「下工弁慶号」の貸借契約調印式が25日、同機関車を所有する下松市の市役所で行われた。

下松市と博物館 貸借契約調印

井川成正市長や同博物館の木村俊弘・副館長らが出席。井川市長は「下工弁慶号は活躍の場を与えられて幸いです。立派に役目を果たすことを期待しています」とあいさつした。木村副館長は「生きた資料として、来館者の胸の中をいつまでも走り続けると思いますが」と感謝した。

下工弁慶号は100年前の1907年（明治40年）に東京石川島造船所（現・

石川島播磨重工業）で製造され、現存する国内最古の小型蒸気機関車とされる。徳山海軍燃料廠で石炭運搬に使われた後、下松工業学校（現・下松工高）で実習教材となり、96年に下松工高の同窓会から下松市に寄贈された。

この日、調印式後に下工弁慶号は市役所横のガラス張りの格納庫から搬出され、トラックで陸路、東京へ向かった。26日夜に同博物館に搬入され、9月30日まで無償で貸し出される。大鉄道博覧会は9月9日まで。

トラックに積み込まれる下工弁慶号



★大鉄道博覧会（江戸東京博物館）での「下工弁慶号」

写真提供M 3 5 橋本暢公氏



江戸東京博物館



会場入り口



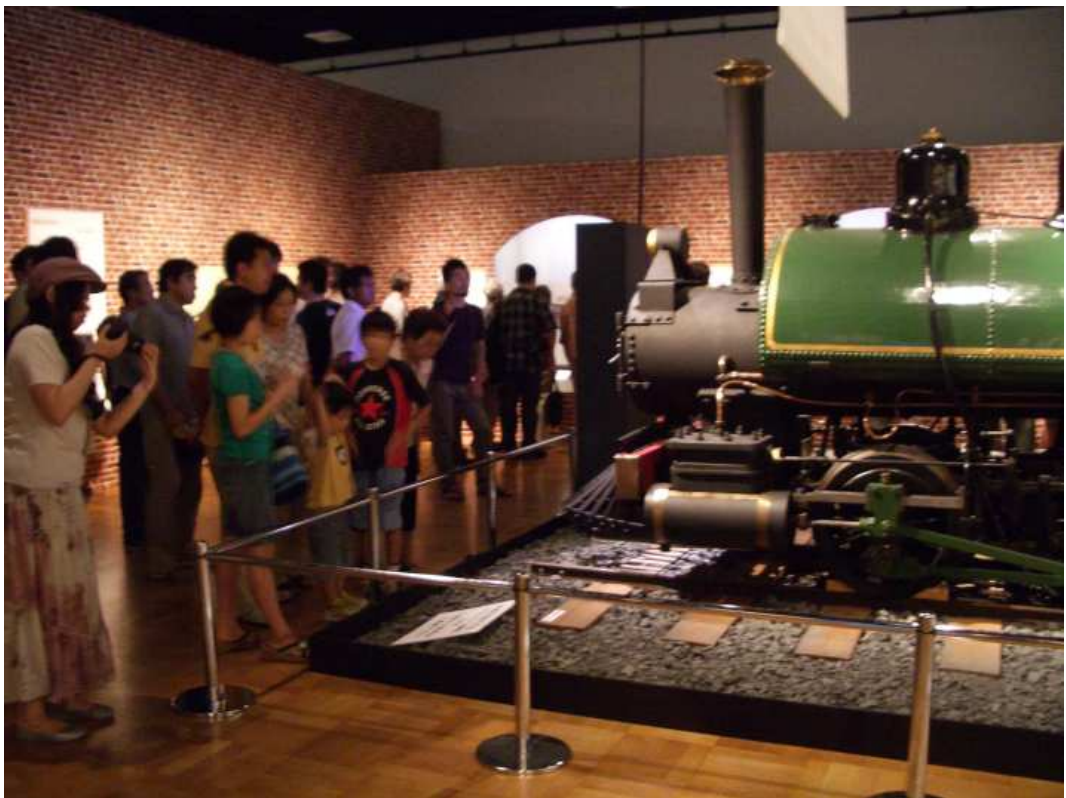
多くの見学者



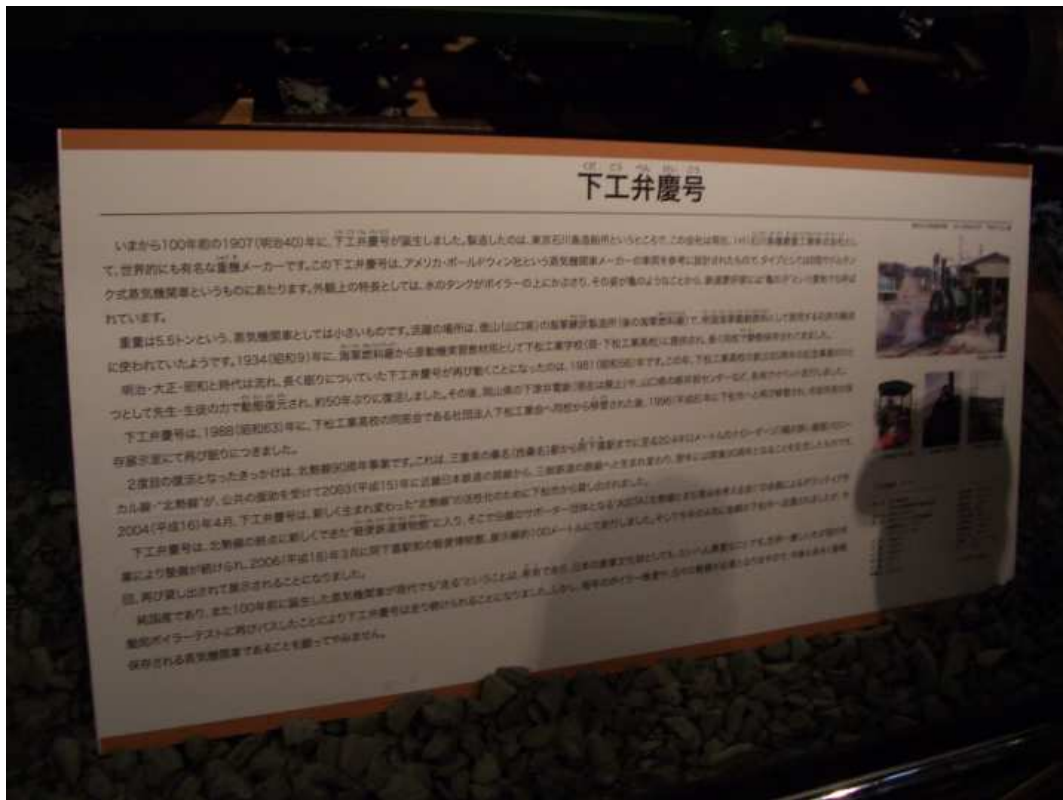
多くの見学者



多くの見学者



展示「下工弁慶号」



説明パネル



展示「下工弁慶号」



展示「下工弁慶号」



展示「下工弁慶号」

★大鉄道博覧会での役目を終え、市役所展示格納庫に帰着

江戸東京博物館（東京都墨田区）で平成19年7月10日から9月9日の間、開催された「大鉄道博覧会」で展示されていた「下工弁慶号」が役目を終え、9月19日午前、市役所グリーンプラザの展示格納庫に無事帰着しました。写真は帰着の様子を写したものです。



★下工弁慶号が「潮騒」（下松市広報誌）の表紙に登場

下工弁慶号が「潮騒」（下松市広報誌）の平成19年7月15日号（No.1272号）の表紙に登場しました。表紙紹介の記事で次のように紹介されています。

市役所グリーンプラザに展示されていた小型SL「下工弁慶号」が、江戸東京博物館（東京都）で7月10日から開催される「大鉄道博覧会」で展示されることになり、6月25日に調印式が行われました。全長約4メートル、重さ5.5トンの弁慶号は、クレーンでトラックに搬入され、晴れ舞台に向け東京へと旅立ちました。



8. その他マスコミ報道等

★下工弁慶号の図面化完成・市へ寄贈

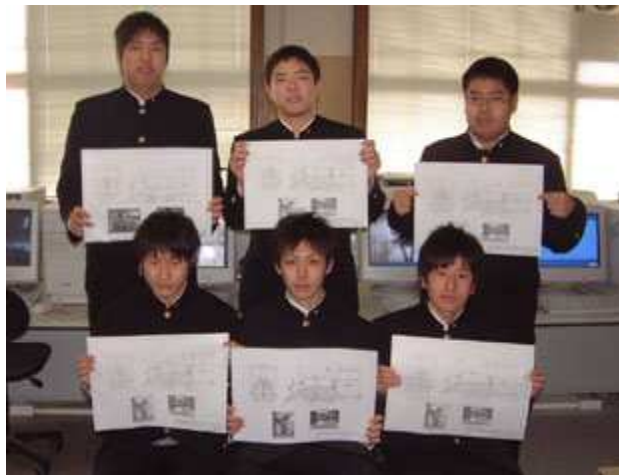
平成21年3月4日付の日刊「新周南」・Web版に下記のような記事が掲載されました。これは、このページの下欄にも掲載されている昨年の生徒達の思いを受け継いだものです。

平成21年3月4日 日刊「新周南」・Web版

先輩から後輩へ2年がかりの努力実る

下工弁慶号の図面化が完成

市教委に寄贈、長く保管



完成した図面に喜ぶ生徒たち

下松市役所に展示されている SL 下工弁慶号の図面が下松工高（村上正美校長）システム機械科生の手で完成した。完成図を見ずに昨春卒業した先輩4人の思いを3年生6人が引き継いで完成させたもので、図面は1日の卒業式を前に管理している市教委に贈られた。

下工弁慶号は1907年（M40）製造。徳山海軍燃料廠の石炭運搬や同校の教材に使われ、96年（H8）に同窓会の下松工業会が市に贈った。2004年（H16）から3年間、三重県のまちづくり団体に地域活性化に貸し出し、07年（H19）は東京ビッグサイトの大鉄道博覧会で展示されて全国に知られた。

しかし図面は製造した石川島播磨重工にも市や海軍関係にもなく、SLでは珍しい狭軌の下工弁慶号を図面化しようという声が出ていた。それを昨春卒業の片田寛和、河添裕紀、原淳巳、山根恵介君が知り、課題研究で図面化に取り組んだ。

しかし格納庫が狭いため採寸作業が難しく、大鉄道博に3カ月貸し出したため作業時間が足りず、片田君らは未完成のまま卒業。1年後輩の池本公一、梅田宏輝、清湧士、田中翔、長光剛志、藤井彰君が課題研究で引き継いだ。

6人は先輩の大まかな採寸をもとに汽笛、運転台からネジ1本まで採寸し、CADで製図した。採寸のたびに市役所と学校を往復したが、寸法の測り忘れがあると作業が進まず、夏は暑い庫内で大変だったという。

完成したのは20分の1の正面と側面図。6人は「機関車採寸の貴重な経験ができた」「細かい計測が大変だった」「細かい作業の繰り返して集中力がつき、精神的に強くなった」と感想を述べ、指導した園部雅史教諭は「歴史ある下工弁慶号の図面を残せたことは特筆すべきこと。難しい採寸から製図までやり遂げた経験は大変大きい」と賛えている。

図面を受け取った市教委社会教育課も「下工弁慶号の貴重な資料として大切にしたい。2年がかりの努力に敬意を表したい」と感謝している。

★走る勇姿見られない？（新聞報道から）

平成19年12月16日付、読売新聞・周南地域版「やまぐちの断面」に、下松市が老朽化を理由にボイラーの使用更新手続きをとらない方針で、このため「下工弁慶号」は実際に走ることができない休眠状態に入る見通しとの記事が掲載されました。その内容を下に掲載します。



100歳を迎えた下工弁慶号は、現在、市役所前広場で展示されている。

100歳のSL
下工弁慶号

走る雄姿見られない？

今年で満100歳を迎えた下松市の小型蒸気機関車「下工弁慶号」(弁慶号)。走行可能な状態(動態)で現存する軽便鉄道用蒸気機関車としては、日本で最古とされる。だが、所有する同市は来年1月、老朽化を理由に、蒸気機関車の心臓部とも言えるボイラーの使用更新手続きを取らない方針で、弁慶号は実際に走ることが出来ない。休眠状態に入る見通しだ。この一方で、地元の愛好者からは、動態保存を望む声も強まっている。煙を噴き上げながら走る雄姿は、もう見る事が出来ないのだろうか。

田中誠也

◆ だが、「高齢の心臓」の安全性を確保できず、いつ

1907年に製造された下高駅まで運ばれて走行し、人気を集めた。弁慶号は、34年まで旧徳山海軍燃料廠で石炭運搬を担った後、旧下松工学校(現下松工高)に実習教材として譲渡された。同校創立60周年の81年と、10年後の91(62)IIが結成され、市側に譲渡された。同校創立60周年の81年と、10年後の91(62)IIが結成され、市側に譲渡された。同校創立60周年の81年と、10年後の91(62)IIが結成され、市側に譲渡された。同校創立60周年の81年と、10年後の91(62)IIが結成され、市側に譲渡された。

どこで走らせるといった具体的な計画もないことから、市は「当面、動態保存をする考えはない」との結論に至り、来年1月18日有効期限が切れるボイラーの更新検査を見送ることにしている。

下松市、ボイラー検査見送り 動態保存望む声

ボイラーの検査は爆発・破裂などの事故を防止する目的で、労働安全衛生法や「ボイラー及び圧力容器安全規則」などで、年に1度の実施が義務付けられている。車の車検と同じで、検査を通過しなければ走らせるとは出来ない。

また、市が案ずる「安全性の確保」をクリアするたにボイラーを新調して「機関車の心臓部を取らなければならない」と、文化的価値が保てなくなる(市教委社会教育課)との課題があるという。文化財的価値と、実際に走らせること。どちらを優先するかという点で、関係者の意見の一致をみていないのが現状だ。



「せめてボイラーの更新だけでも動かせたら...」と、鈴木さんは残念がる。最近、そんな思いを抱く鈴木さんの心を和ませたのが、10月13日に市役所前広場で開かれた幼稚園児による弁慶号「100歳の誕生日会」。「私たちが弁慶君を期待したい。」

★「おめでとう100歳！下工弁慶号お祝いに会」が開催される

「おめでとう100歳！下工弁慶号お祝いの会」が平成19年10月13日、下松ライオンズクラブ等が主催し、下松市役所グリーンプラザで開催されました。市内の保育園や幼稚園児約300人が集まり「長寿」を祝いました。この催しは、地元テレビでも放映されました。下の記事は、その様子を伝える平成19年9月17日付け、読売新聞周南地域版です。

弁慶号100歳おめでとう



走行可能な小型蒸気機関車

走行可能な小型蒸気機関車としては国産最古とされる下松市所有の「下工弁慶号」が今年で「100歳」を迎えた。このほど開かれた「おめでとう100歳！下工弁慶号お祝いの会」には、市内の保育園や幼稚園の年長児約300人が駆け付け、弁慶号の「長寿」を祝った。

弁慶号は1907年（明治40年）に、東京の石川島で、重量は5.5ト。34年造船所（現・IHI）で製まで、徳山海軍燃料廠で造された。全長約4.4m、幅、石炭運搬車として使用され

国産「最高齢」、園児ら300人がお祝い

その後、下松工高に教材として提供されていた。今夏に東京・江戸東京博物館で開かれた「大鉄道博覧会」（読売新聞社など主催）では、目玉資料として展示された。

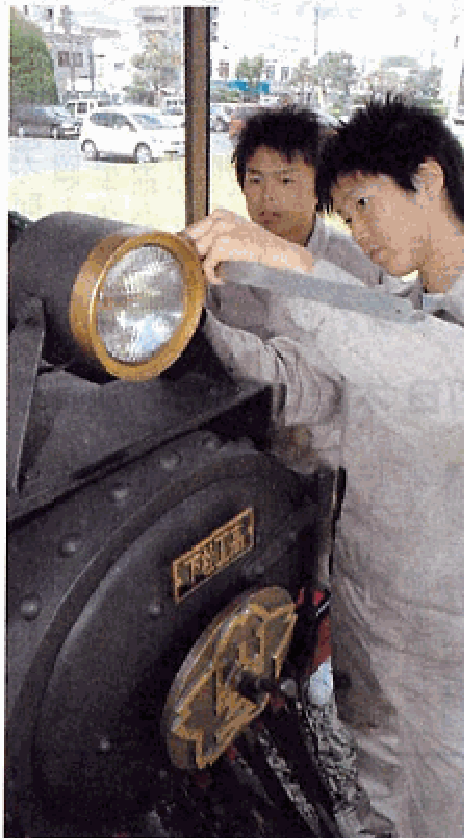
お祝いの会は、下松ライオンズクラブなどが主催し、13日、同市役所グリーンプラザで行われた。井川成正市長が「お誕生日おめでとう」と弁慶号に声を掛けると、子どもたちも元気良く「おめでとう」と呼び掛け、園児を代表して愛隣幼稚園の伊藤海飛君（6）と山本安純ちゃん（6）が「自分たちも弁慶号さんのように強くなるので見ていてくださいね」とあいさつ。各園児らで作った紙製の巨大パースデーケーキを同号に贈った。

その後、子どもたちは弁慶号と記念撮影をするなどして楽しんだ。同会の様子は今後、市役所ロビーでの写真展で紹介するという。

▲ 手作りのパースデーケーキ（紙製）をプレゼントする園児ら

外観図面 生徒が製作中

国内最古のミニSL 下工弁慶号



下工弁慶号の採寸作業に取り
組む下松工高の生徒たち

現存する国内最古の小型蒸気機関車とされる下松市所有の「下工弁慶号」（全長4・05㍍）の外観図面（外形図）の製作に、下松工高システム機械科の3年生4人が取り組んでいる。市には外形図が残っていないため、完成後は市に寄贈することになっており、貴重な資料となりそうだ。

下松工高

100年前の1907年（明治40年）に製造された下工弁慶号は、旧下松工業学校（現下松工高）で実習教材として使われたこともあり、96年に下松工高同窓会から市に寄贈された。最近3年間は三重県の三岐鉄道北勢線に貸し出されていたが、4月に戻ってきたことから、同校の園部雅史教

諭（40）が生徒に、外形図の製作を提案した。

同校ではこれまで、新幹線などの外形図を写す実習は行ってきたが、実車を見て外形図を描くのは初の試み。しかし、生徒たちは気後れすることなく名乗りを上げ、4月中旬から、木曜日の「研究課題」の授業時間約80分を製作にあててい

3方向から測定、記録……根気の作業

現在、2人一組で採寸作業に取り組んでいる。一人がノギスやメジャーで車輪の直径や煙突の長さ、車体の曲線の半径などを測定し、もう一人が手書きの図面に数値を書き込んでいく。正面、側面、後方の3方向から、ボルト一本に至るまで寸法を測る根気のいる作業だ。これまでに4回行い、半分程度まで進んだ。採寸終了後は、コンピューター利用設計（CAD）で図面を仕上げ

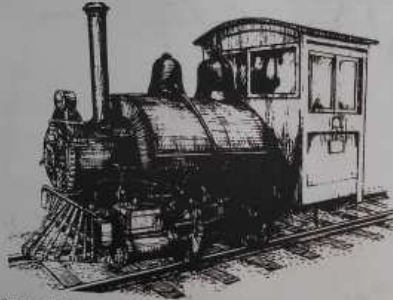
下工弁慶号は7月から2か月間、東京で開かれる鉄道博覧会で展示される。卒業までに外形図の製作に取り組める期間は、正味4か月余りしかない。メンバーの一人、山根恵介君（17）は「曲線が多く、測るのが難しいけど、絶対完成させる。できるだけ正確な外形図を残したい」と意気込んでいる。

★こんなところで「下工弁慶号」を見つけました

平成18年3月30日に開通した市道大手町線、母校のそばを流れる平田川に架かる「公集大橋」の欄干で「下工弁慶号」を見つけました。交通安全に注意しながら、一度ご覧下さい。



くだ こう べん けい ごう
下 工 弁 慶 号



明治40年(1907)に製作された小型蒸気機関車。その形から「亀の甲」とも呼ばれる貴重な文化遺産。昭和9年(1934)に下松工業高等学校が譲り受け、実習やイベントに使用され「下工弁慶号」という愛称で親しまれた。

現在は、市に寄贈、展示されている。

全長4.05m 重量5.5t

2005 4 18